

はせがみもとだてきた
馳上遺跡・元立北遺跡発掘調査説明資料

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 平成 28 年 11 月 3 日

調査要項

遺跡名(番号)	馳上遺跡(県番号 202-560) 元立北遺跡(県番号 202-688)
所在地	山形県米沢市大字川井字元立・道下
時代・種別	縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世 集落遺跡
起因事業	(仮称)道の駅よねざわ
調査依頼者	米沢市産業部商工課 置賜総合支庁建設部道路計画課
調査機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
現地調査	平成 28 年 4 月 25 日から 11 月 11 日まで
調査面積	14,489㎡
調査担当者	調査研究員 渡辺和行(現場責任者) 調査員 森谷康平 安達将行 吉田満 三浦一樹 山田めぐみ
調査成果	(11月3日現在)
検出遺構	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・井戸跡・河川跡・溝跡・柱穴
出土遺物	土師器・須恵器・陶器・木製品・砥石・古銭など



図1 遺跡位置図(1/25,000)

1 調査の概要

馳上遺跡・元立北遺跡は、最上川の支流である羽黒川右岸の後背湿地上に立地する集落遺跡です(図1)。これまでの調査で、古墳時代、奈良・平安時代、中世の遺構・遺物が確認されています。

今年度は、道の駅建設に伴う調査として馳上遺跡と元立北遺跡の2つの遺跡について実施しています。馳上遺跡は今回で8次調査となります。調査対象面積は13,489㎡になりました。1次から8次までの調査面積を併せると約49,900㎡になります。元立北遺跡は昨年度登録された遺跡で、調査対象面積は1,000㎡になります。

2 馳上遺跡

検出された遺構は蛇行する河川跡や古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡のほか、土坑、井戸跡、溝跡、柱穴などです。また、中世に属すると考えられる遺構として掘立柱建物跡があります。その他に近代の溝跡が検出されています。これらの遺構は西側の調査区から検出されています(図3)。

竪穴住居跡は現時点で10棟確認されており、竪穴住居1とした1棟は古墳時代に属しており、カマドは東側に付属していました。その他の住居のカマドの位置は南側及び北側に付属していたとみられ、9棟の内、6棟は南側に付属していたようです。西側の調査区は、現代のほ場整備などの土地利用の変遷の

中で上部が削平されたとみられ、遺構の深さも浅いものが多くを占めていました。

掘立柱建物跡では、倉庫と考えられる2×2間の総柱建物跡や3×4間の側柱建物跡などがみついています(写真10)。

遺物はそのほとんどが河川跡1から出土しており、その他は土坑や井戸跡、竪穴住居から出土しています。

3 元立北遺跡

馳上遺跡の東に位置する遺跡で昨年度確認されました。今回の調査では2棟の竪穴住居が確認されました。いずれも大型の住居で古墳時代の遺物が出土しています。調査区中央に位置する竪穴住居1からは須恵器のハソウと呼ばれる土器が2点出土しています。

県外からの搬入品と考えられます。また、床面には炭化した木材が中央部から放射状に横たわっていました。焼土や炭化物も大量に検出したことから火事のため焼けた住居(焼失住居)と考えています。

落ち込みとした遺構からは縄文時代晩期の遺物が出土していますが、資料数はあまり多くありません。恐らく周辺にこの時期の遺跡が存在しており、そこから流れ込んだものと考えられます。

河川跡からは古墳時代の遺物を中心に奈良・平安時代の遺物も出土しました。特に南側から古墳時代の石製模造品や坏や甕などが出土し、古代に属する遺物は数点の出土しかありませんでした。

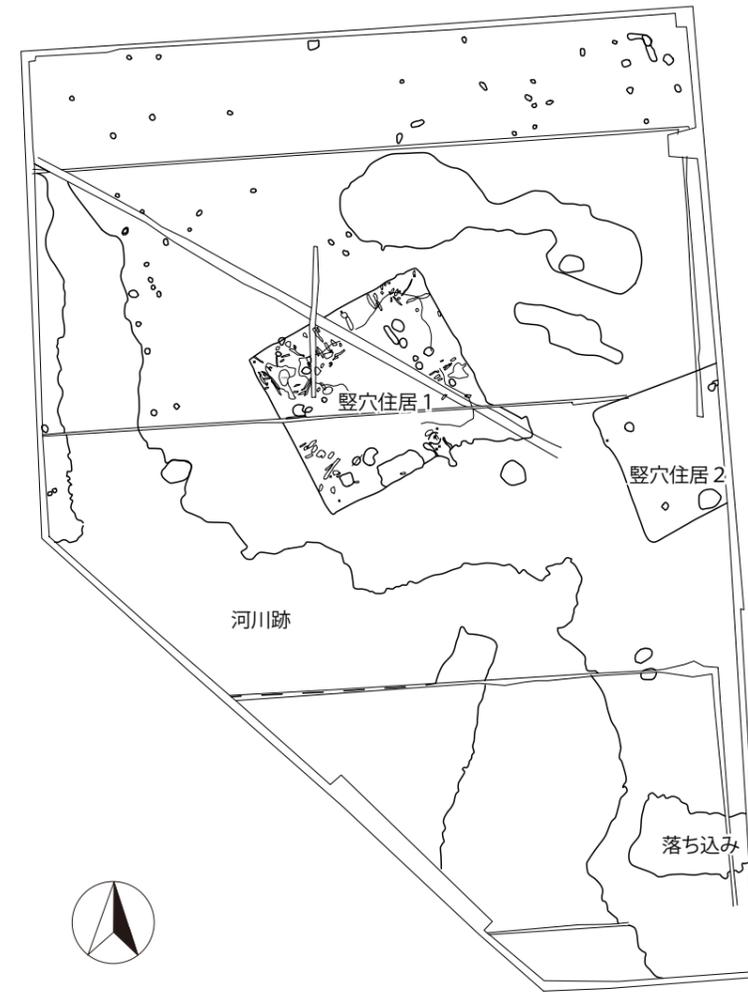


図2 元立北遺跡遺構配置図(任意縮尺)



写真1 竪穴住居1完掘状況(北から)



写真2 竪穴住居2完掘状況(北から)



写真3 元立北遺跡全景(俯瞰)

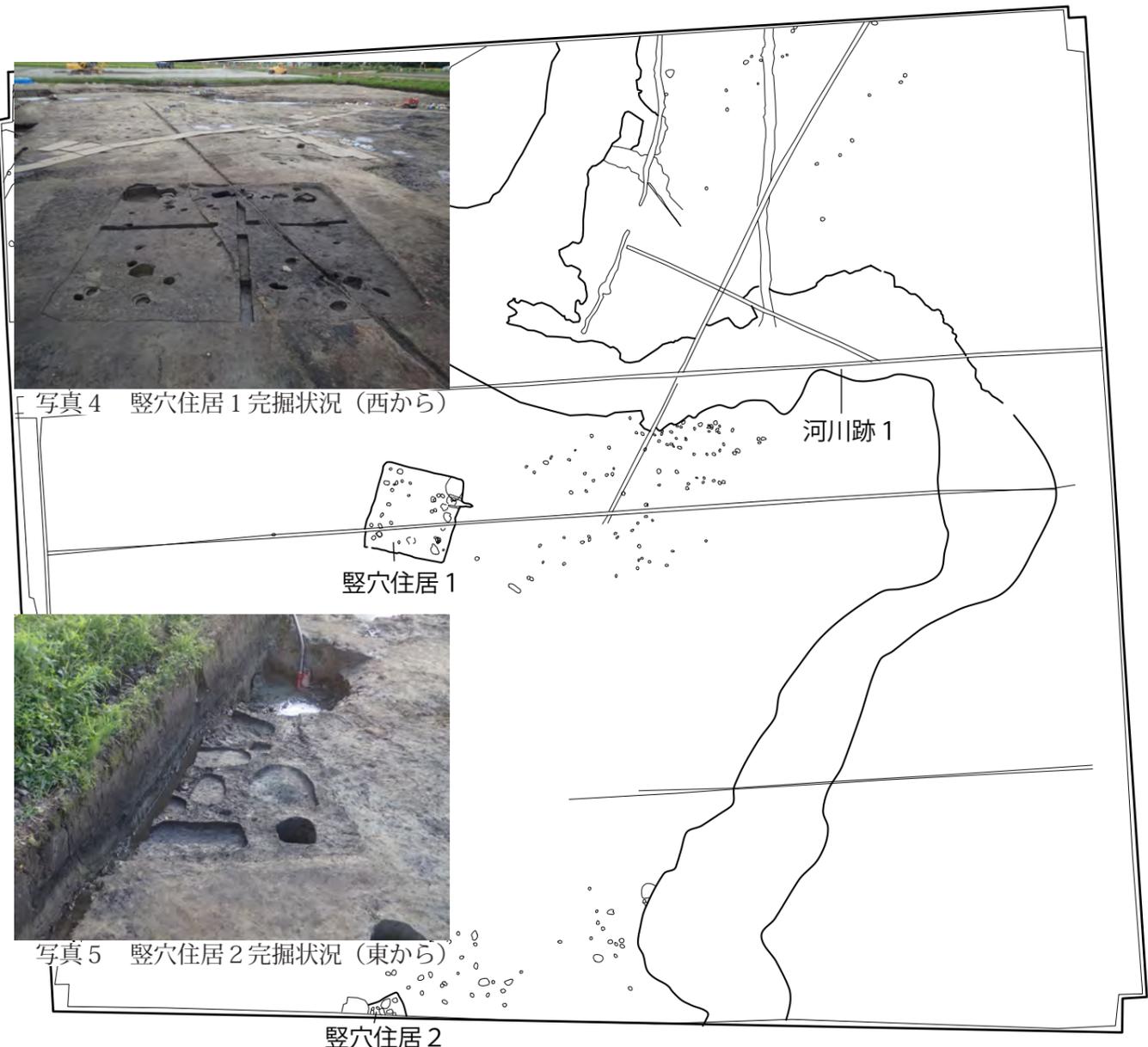
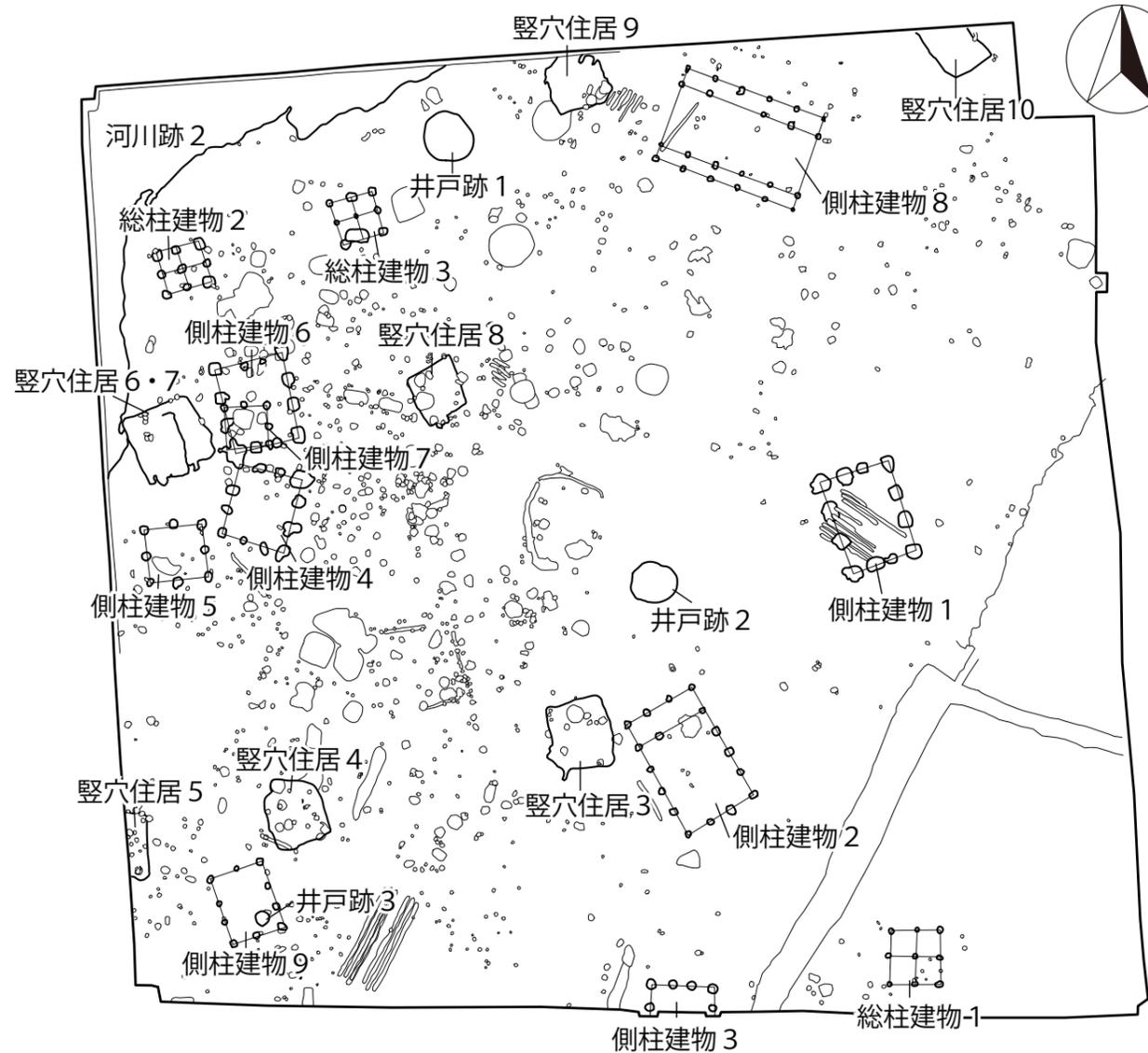


図3 馳上遺跡遺構配置図 (任意縮尺)



写真6 竪穴住居4完掘状況(北から)

写真7 竪穴住居6遺物出土状況(北から)

写真8 土坑からの遺物出土状況(南から)

写真9 井戸跡2完掘状況(東から)

写真10 側柱建物2(北から)